

アカモクの増殖試験

(藻場造成技術開発)

柳 昌之・佐々木 正

1. 研究の目的

磯やけ対策として、食用として利用されているアカモクの藻場造成技術を開発する。

2. 研究方法

母藻集団に隣接した海域に、綿ロープで作成したネットを採苗器として海底に設置し、天然採苗を行う。種苗は採苗器において秋季まで中間育成し、成長期である晩秋以降に造成海域に張り込む。

3. 研究結果

(1) 採苗方法

隠岐郡隠岐の島町蛸木地区地先の水深5~10mの砂浜域に、直径6mmの綿ロープで作成した目合10cmと20cmの2m四方のネット各2基計4基を、平成20年4月16日と5月27日にそれぞれスキューバ潜水により、ネットが海底上30cmとなるよう調整し設置した。

(2) 結果

平成20年9月2日に、スキューバ潜水により採苗器を目視観察したが、いずれの採苗

器もネット部にはアカモクの幼体は発見できなかった。

また、カワハギ類の幼魚が摂餌行動と思われる、ロープをつつく行動が観察された。

しかし、4月の採苗器設置時に、漂砂の影響を検討するために8個投入していた建築用コンクリートブロックのうち3個には、アカモクの幼体が着生しているのが認められた。

(3) 考察

詳細は次年度に報告するが、平成21年度の調査において、5月設置の採苗器の採苗器固定用のサンドバッグおよびロープにアカモクが高密度で着生しているのが認められた。

建築用コンクリートブロックやサンドバッグなど、海底面上にある構造物への着生から、採苗器の設置水深を海底上30cmとしたことにより着生が認められなかったのではないかと思われる。平成21年度には、これらの知見を生かした採苗器を設置することとしている。